

# 幼稚園教育における望ましい年間指導計画の作成

## －育ちの過程に応じた指導法の改善－

### 目 次

I	テーマ設定の理由 .....	1
II	研究の仮説 .....	1
III	研究の全体構想図 .....	1
IV	研究の内容 .....	2
	1 教育課程について .....	2
	(1) 教育課程の意義 .....	2
	(2) 教育課程についての基本的な考え方 .....	3
	(3) 教育課程の編成方針 .....	3
	(4) 教育課程編成上の留意点 .....	3
	2 幼児期の特性と発達を促す生活 .....	3
	3 幼稚園教育と小学校教育の・方法上の相違点 .....	4
	(1) 幼稚園教育の特質と小学校教育との相違 .....	4
	4 指導計画作成について .....	5
	(1) 指導計画作成の全体構想図 .....	5
	(2) 指導計画作成の基本的な考え方 .....	6
	(3) 指導計画作成の実際 .....	6
	5 教育課程・年間指導計画の現状と見直し .....	12
	(1) A園の現在の教育課程 .....	12
	(2) 見直したA園の教育課程 .....	12
	(3) 年間指導計画(例4月) .....	13
	(4) 見直した年間指導計画(例4月) .....	13
	(5) 年間指導計画(例1月) .....	14
	(6) 見直した年間指導計画(例1月) .....	14
	(7) 教育課程・年間指導計画見直しの考察 .....	15
	6 検証保育 .....	16
	(1) すみれ組・指導案 .....	16
	(2) 展開 .....	17・18
	(3) 検証保育を終えて .....	19
V	授業の成果と今後の課題 .....	20

# 幼稚園教育における望ましい年間指導計画の作成

— 育ちの過程に応じた指導法の改善 —

宜野湾市立志真志幼稚園 教諭 安里 初枝

## I テーマ設定の理由

幼児期は生活の中で、自分の興味や欲求に基づいた直接的、具体的な体験を通して人間形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分からかかわろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度が培われる時期である。

幼稚園教育においては、幼児期の発達の特徴を踏まえて、その目的や目標が有効に達成されることが大切である。したがって幼児の生活の実情に即した教育内容を明らかにし、園生活を通して園児一人一人の育ちにそった適切な計画が必要とされなければならない。

本園においては、「健康でたくましい子」、「明るく思いやりのある子」、「よく見・よく聞き・よく考える子」を教育目標とし、目標実現に向けて具体的指標、教育方針、本年度の努力点、指導の重点、指導計画などの教育課程がある。

教育課程は教育期間（一年）の全体にわたって幼稚園教育の目的や目標に向かって、どのような道筋をたどって教育を進めて行くかを明らかにし、幼児の発達の各時期にふさわしい園生活が展開されるようなねらいや内容が組織され、指導計画を立案する際の骨格となるものである。

しかし教育課程に沿って指導計画を立案し、保育を実践したときに、設定したねらいや内容と幼児の発達する姿のズレに気づくことがある。社会が目まぐるしく変化し、情報が氾濫し価値観の多様化の中で核家族化・共働き・少子化など幼児を取り巻く環境が日々変わりつつあり、社会の変化に柔軟に対応し得る人間の育成を目指し「心の教育」も重視され学校教育に期待も大きい。したがって幼児の生活する姿から育ちを読み取り、発達に沿った指導の工夫や環境構成が必要とされるが、その読み取りの不十分さからねらいが達成されることが弱い場合がある。

本来指導計画は一人一人の幼児が生活を通して、発達に必要な体験が得られるようにするための具体的な指導の方向性をもつための仮説であり、柔軟に行うものであるといわれている。

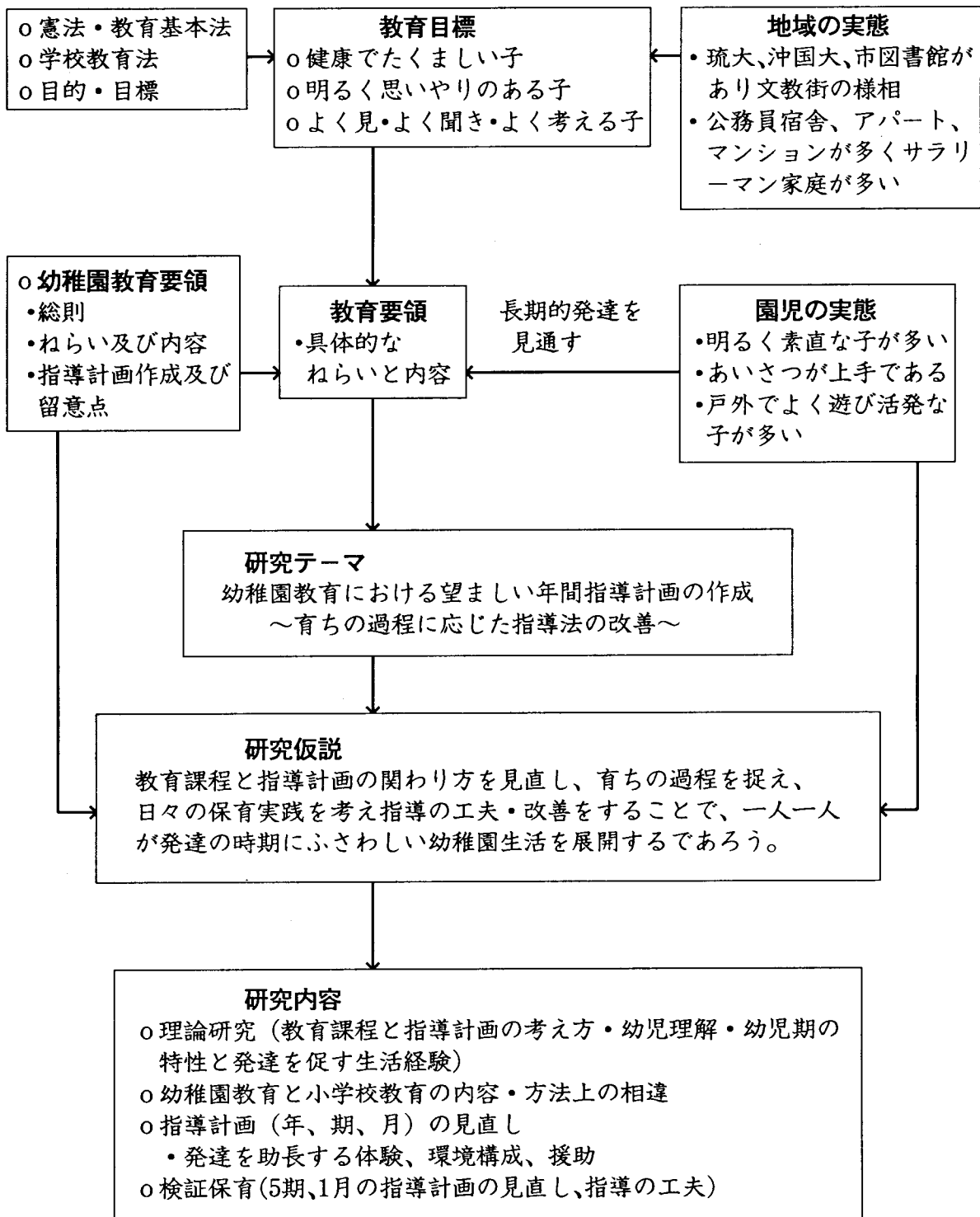
幼児の生活する姿から、幼児がどのように発達していくかという発達の過程を捉え、それぞれの発達の時期においてねらいや内容をどう設定し、どのような経験をしてほしいか、環境の設定や援助はどうあればよいかなどを評価・改善することが大切であると考えられる。

このようなことから、教育課程と指導計画、指導計画と具体的な指導との関わりをもう一度見直し、育ちの過程に応じた指導を工夫することで充実した園生活が展開されるであろうと本テーマを設定した。

## II 研究仮説

1. 教育課程と指導計画の関わりを見直し、育ちの過程を捉え、日々の保育実践を考え指導の工夫・改善をすることで、一人一人が発達の時期にふさわしい幼稚園生活を展開するであろう。

### III 研究の全体構想図



### IV 研究の内容

#### 1. 教育課程について

##### (1) 教育課程の意義

幼稚園は、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを

目的とする(学校教育法第77条)すなわち、幼稚園は、人間形成の基礎を培うことを目指して行われ、しかも意図的な教育を目的としている学校である。したがって幼稚園教育の目的・目標を有効に達成するために、入園から修了に至るまでの長期的視野をもって幼児の発達を見通し、充実した生活が展開できるようにしなければならない。

幼稚園においては、全体的な教育計画として創意ある教育課程の編成に努め幼児の教育を行う必要がある。

## (2) 教育課程についての基本的な考え方

- ①諸法令、幼稚園教育要領に従う
- ②幼児の心身の発達と幼稚園や地域の実態に即応する。
- ③幼稚園生活全体を通して幼稚園教育のねらいが総合的に達成できるよう、教育期間や幼児の生活経験や発達の過程を考慮して、具体的なねらいと内容を組織する。
- ④入園から修了に至るまでの長期的な視野をもって、充実した生活が展開できるよう配慮する。
- ⑤教育週数は、特別の事情のある場合を除き、39週を下ってはならない。
- ⑥一日の教育時間は、4時間を標準とする。ただし幼児の心身の発達の程度や季節などに適切に配慮する。

## (3) 教育課程の編成方針

宜野湾市立幼稚園管理規則、幼稚園教育要領を踏まえ、「幼稚園教育の基本は環境を通して行うものである」ことに基づいて、次の事項を重視して編成する。

- ①幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展望されるようにする。
- ②遊びを通しての指導を中心として幼稚園教育の「ねらい」が総合的に達成されるようにする。
- ③幼児一人一人の特性に応じた発達の課題に即した指導を行うようにする。

## (4) 教育課程編成上の留意点

- ①人とのかかわりをもつ力を育成する。
- ②園外保育や飼育栽培などを通して、体験的な活動が得られるようにする。
- ③基本的な生活習慣を育成する。
- ④障害児が健常児と集団生活を通して、全体的な発達を促すとともに、障害の程度に応じて訓練をしたり、指導援助をしていくようにする。
- ⑤全職員で全園児を保育する形態をとりながら、教育目標達成に努める。

## 2. 幼児期の特性と発達を促す生活経験

幼 児 期 の 特 性	発 達 を 促 す 生 活 経 験
1、幼児期は身体の発達が著しく、生涯にわたる心身の健康の基礎を培う時期	1、身体の諸機能を十分に発揮して、意欲的に運動し、体を清潔にしようとしたり、進んで生活の場を過ごしやすく整えようとしたりする経験
2、幼児期は、将来にわたり他者とかかわりながら、社会生活を営んでいくた	2、周囲の人から温かく見守られているという信頼感を基盤にして、安心して身近な人

めの基礎となる力が培われる時期	々と触れ合いながら、さまざまな生活を楽しんだり、自分の力で行動することの喜びや充実感を味わう経験
3、幼児期は、自然や身近な社会の出来事と触れ合うなかで、深く心を動かされる体験を通して、環境と積極的にかかわる力が培われる時期	3、生活の中で幼児が自ら、好奇心や探究心をもって、身近かな環境と十分かかわりながら体を通して実感していく経験
4、幼児期は、自分以外の他者の存在に気づき、自分を表現したり、相手を受けいれたりする意欲や態度などが育つ時期	4、幼児が日常生活の中で、教師や友達と親しく接しながら、自分たちの感情や意志などを、言葉で伝え合う喜びを味わう経験
5、幼児期は、生涯にわたる感性や表現力の基礎を培う時期	5、園生活の中で、身近な環境に十分にかかわることにより、さまざまな美しいものや心を動かされることに会うことで、そこで感じることを自分なりに表現し充実感を味わう経験

### 3. 幼稚園教育と小学校教育の内容・方法上の相違点

#### (1) 幼稚園教育の特質と小学校教育との相違

##### ① <法令上>

- ・学校教育法第17条 小学校は「心身の発達に応じて、初等普通教育を施することを目的とする。」
- ・学校教育法第77条 幼稚園は「幼児を保育し、適当な環境をあたえて、その心身の発達を助長することを目的とする。」

##### ② <実践の場における具体的な相違点>

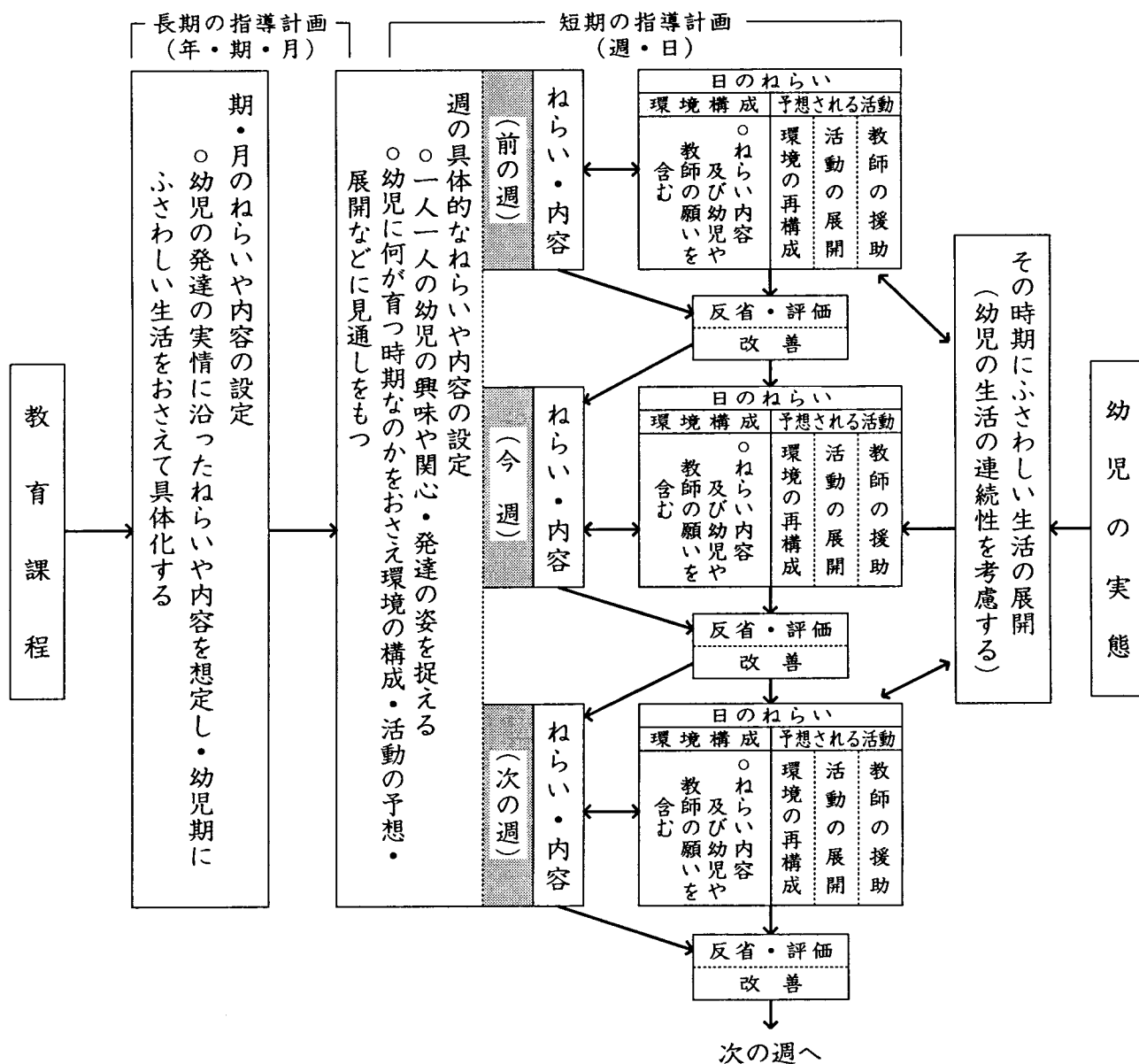
幼 稚 園	小 学 校
<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを中心とした生活を通しての総合的な指導。</li> <li>・一日が最小の単位であり、興味や意識の流れを重んじる。</li> <li>・ねらいを教師がもち、一人一人の発達に即して機会や場を捉え、方向づけを行う。</li> <li>・一人一人の思いや興味・関心を大切に、幼児が選ぶ多様な活動を行う。</li> <li>・ねらいは育ちの方向性を示唆し、教師は環境を構成し、幼児のかかわり方を援助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を中心とした指導。</li> <li>・一定の時間割が組まれ、単位時間で学習活動を区切られることが多い。</li> <li>・教科等の目標や内容に沿って単元や教材等が決められ、それらに基づいて学習活動が展開される。</li> <li>・教材や活動の幅を広げる工夫がなされるようになっているが、実際には、共通の教材と場を教師が選び、一斉に活動することが多い。</li> <li>・学習のねらいを到達度的に捉え、それに到達するように教師の指示的な指導が行われる。</li> </ul>

☆ 幼稚園教育は、子どもの生活を生かしながら、そこで生みだされた子どもの活動を尊重し、その生み出された活動について教師が意味を見だし、子どもの発達に必要な経験となるように方向づけていくことである。

☆ 幼稚園における領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」は、小学校における教科のように教育内容を区分し、一定の時間配分と時間割のもとに一定の教材教科書を持ちいて指導されるものではなく、幼稚園生活の全体を通して総合的に指導を行う際の視点であるので、各領域に取り出して指導するものではないことを理解しなければならない。

#### 4. 指導計画作成について

##### (1) 指導計画の全体構想図



## (2) 指導計画作成の基本的な考え方

指導計画は教育課程に沿って、更に具体的なねらいや内容、環境の構成、活動の予想、教師の援助などといった指導の順序や方法を明らかにし、具体化したものである具体化する際には、一般に長期的な見通しをもった年、期、月などの計画と関連して具体的な幼児の生活に即した短期計画としての週案、日案などの指導計画が考えられる。

### ① 仮説としての指導計画

指導計画については、さまざまな考え方がある。幼稚園教育は環境を通して行う教育であり、「幼児が主体的に環境にかかわって活動を生み出し、幼児期にふさわしい生活の展開」ということで、実際に指導を行う場合には、幼児の発想や活動の展開を大切にしながら、あらかじめ設定したねらいや内容を修正したり、それに向けて環境を再構成したり、必要な援助をするなどの指導を適切に行う必要がある。したがって一人一人の幼児が幼児期にふさわしい生活の展開に必要とする体験が得られるために指導計画は、仮説として大切な計画である。

## (3) 指導計画作成の実際

### ① 指導計画作成上の留意事項（教育要領第3章）

幼稚園教育は、幼児が自ら意欲をもって環境にかかわることによりつくり出される具体的な活動を通して、その目標の達成を図るものである。幼稚園においてはこのことを踏まえ、幼児期にふさわしい生活が展開され、適切な指導が行われるよう、次の事項に留意して調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、幼児の活動に沿った柔軟な指導を行わなければならない。

ア、指導計画は、幼児の発達に即して一人一人の幼児が、幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験を得られるようにするために、具体的に作成する。

イ、指導計画作成に当たっては、具体的なねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなどにより活動が選択、展開されるようにする。

- 具体的なねらい及び内容は、幼稚園生活における幼児の発達の過程を見通し、幼児の生活の連続性、季節の変化などを考慮して、幼児の興味や関心、発達の実情などに応じて設定する。
- 環境は具体的なねらいを達成するために適切なものになるように構成し、幼児自らその環境にかかわることにより、様々な活動を展開しつつ必要な体験を得られるようにする。
- 幼児の行う具体的な活動は、生活の流れの中で様々に変化するものであることに留意し、幼児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していくことができるよう、必要な援助をする。

その際、幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して、指導の過程についての反省や評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図ること。

ウ、幼児の生活は、入園当初の一人一人の遊びや教師との触れ合いを通して、幼稚園生活に親しみ、安定していく時期から、やがて友達同士で目的をもって幼稚園生活を展開し、深めていく時期などに至るまでの過程を様々に経ながら、広げられていくものであることを考慮し、活動がそれぞれの時期にふさわしく展開されるようにする。

エ、長期的に発達を見通した年、期、月などにわたる指導計画やこれと関連を保ちながら、より具体的な幼児の生活に即した週、日などの指導計画を作成し、適切な指導が行われるようにすること。特に週、日などの指導計画については、幼児の生活のリズムに配慮し、幼児の意識や興味の連続性のある活動が相互に関連して幼稚園生活の自然な流れの中に組み込まれるようにする。

オ、幼児の行う活動は、個人、グループ、学級全体などで多様に展開されるものであるが、いずれの場合にも、幼稚園全体の教師による協力体制をつくりながら、一人一人の幼児が興味や意欲を十分に満足させるよう適切な援助を行うようにする。

カ、幼児の主体的な活動を促すためには、教師が多様なかかわりをもつことが重要であることを踏まえ、教師は、理解者、共同作業者など様々な役割を果たし、幼児の発達に必要な豊かな体験が得られるよう、活動の場面に応じて、適切な指導を行う。

キ、幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにすること。その際、地域の自然、人材、行事や公共施設などを積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験が得られるように工夫する。

ク、幼稚園においては、幼稚園教育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにする。

## ② 幼児期にふさわしい園生活の展開

### ア、幼児期にふさわしい園生活の条件

- ・教師との信頼関係に支えられた生活
- ・興味や関心に基づいた直接的体験が得られる生活
- ・友達と十分かかわって展開する生活

《幼児期は周囲の大人から自分の存在を認められ、受け入れられることにより次第に自立した生活に向かっていく時期である。幼稚園における生活も、教師に暖かく見守られといふという安定感を基礎にして、教師の援助を受けながら徐々に自分の力を発揮するようになる。そして環境にかかわる中で、自ら興味や関心を抱いた活動において自己を十分に発揮することにより、発達に必要な直接的、具体的な体験を積み重ね友達とかかわることが増え、次第に集団で遊ぶ楽しさを求めるようになる。》

その際に教師は、幼児がその特性を十分に発揮できるように環境を構成したり、援助したりする必要がある。》

### イ、幼児期にふさわしい生活の展開のために

- ・幼児の発達をしっかりと捉える。
- ・その発達の中の時期にどのような経験が必要なのかを考える。
- ・こうした経験を得るためには、どんな環境を構成したらよいかを考える。

《このような考え方から幼児の発達の実情や実際の生活に応じて、計画性のある、しかも柔軟な指導を行うことが大切になってくる。したがって、一人一人の幼児にとって楽しく充実した、しかも幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験が得られるようにするためには、指導計画の作成が必要になってくる。》



### ③ 長期の指導計画の作成

編成された教育課程を踏まえて、幼稚園における教育が年、期、月等の期間にどのように展開されていくかを検討し、作成されたものが長期の指導計画である。その際、教師の願いや、指導の根本的なこととしておさえたいことを捉え、さらに教育目標を具体的な幼児像として捉え直し、「幼児に育てたいこと」を確認するとともに教育課程を編成する際に重視したことを再確認し、見直しながら作成されなければならない。

#### ア、実態の把握

幼稚園の中で幼児の生活がどのように展開され、興味や関心をどのように広げたり深めたりしているのか、友達関係や遊びの様子など幼児の生活する姿をしっかりと見とって、その時期、時期の育ちを見通し幼児の発達を理解する。

##### 〈実態把握の観点〉

- ・心や体の発達の状況
- ・生活の中での自立の構え
- ・基本的な生活習慣の定着状況
- ・教師や友達とのかかわり方
- ・幼児を取り巻く環境へのかかわり方
- ・ものの見方、感じ方、捉え方の特徴
- ・言葉の発達の状況
- ・家庭生活、地域等の実態の再確認

これらの実態とその背景にあるものを多面的に捉えていくようにするとともに幼児の生活する姿から発達を捉え、意欲や態度はどうか、また、心情面はどうかを捉えるようにする。

#### イ、期の捉え方

幼稚園において幼児の実態を捉える中で、幼児の生活する姿からその時期、時期の育ちをよみとり、発達の区切り（節目など）を理解し、その区切りによって期を決めていく。その際、その時期は、どんな側面が育ちつつある時期なのか、あるいは停滞している時期なのかなど、実態把握で捉えたことを十分に考察し、幼児の生活する姿から、生活が大きく変容する時期すなわち節目をよみとって、教育期間のどこで区切りをつけた方が望ましいかを検討して、期を設定する。（一年保育5歳児においてはだいたい5期に分けることができる）

#### ウ、発達する姿の捉え方

幼児には発達への要求が内在し、その時期、時期の特性として様相が見られる。その発達への要求を大事にし、その時期の特徴である「子どもであることの本質」を捉えることは、大切なことである。

##### 〈子どもの本質〉

- ・好奇心にあふれている。
- ・外界への驚きや感受性をもっている。
- ・自分から主体的に没頭して活動する。
- ・頭で分かるのではなく、体全体で実感し納得する。

このように幼児は、子どもであることの本質を豊かにふくらませていくことでさまざまな側面を発達させていく。

以上の特徴をふまえて、幼児の幼稚園や家庭における生活の様子から、さまざまな行動を可能な限り把握する。

## <発達を理解する視点>

- 幼稚園生活の中で、幼児の生活がどのように展開されていくのか。
- 興味や関心をどのように広げたり、深めたりするのか。
- 友だち関係は、どのようになっっていくのか。

このような発達の過程は、一律的なものではなく、それぞれの幼児によって異なった経過をたどっていくことを考慮しなければならない。しかし、長期的な視点で捉えると、身につけ方は異なっているけれども、共通して身につけ易い時期があることも念頭において、発達の時期を捉えるようにする。

## エ、具体的なねらいと内容の設定

ねらいの設定については、片寄ったものにならないように幼児の実態により導き出された「ねらい」であることや、幼児の発達の時期に展開される生活にふさわしい「ねらい」であるかどうか、また、この時期にどのような心情、意欲、態度を幼児が身につければよいかを考え、ねらい内容の設定に当たる。

- 幼児の姿をある程度、長期的な見通しをもって捉えたねらいや内容を想定する。
- 幼児の予想される活動の中で、経験すると思われることを内容として捉える。
- 具体的な毎日の生活に応じて、一人一人の幼児の興味や関心の傾向を捉える。
- 教師は幼児と生活を共にしながら、幼児に育てたいことは何か、そのために経験する必要があることは何かをとらえる。
- その時期の生活がどのように展開されるかを十分理解する。
- 幼稚園生活への適応状態、家庭、地域における生活との連続性、季節の変化を考慮する。

以上のことを踏まえ、幼児の実態及び変容の姿を把握し、さらに、幼児自ら活動を生み出していけるようなねらいや内容の設定をしなければならない。

## オ、環境の構成とは

「環境は幼児をとりまくすべてである」という考え方に立って、幼児が主体性を十分に発揮しながら、具体的なねらいに向かって必要な体験をしていけるような環境を考えることは、大変重要なことである。幼児が生活する姿から興味や関心を感じ取り、幼児の主体的な活動を促し、その活動の中で必要な体験を重ねていけるような状況をつくりだしていくことが大切である。「幼児をとりまくすべて」とは、遊具や用具、物、他の幼児、教師、身のまわりになに起こる事象、時間、空間、それらがかもしだす雰囲気など、さまざまな要素すべてである。特に「人的環境」としての教師の姿勢は重視される。したがって教師自身の言動や物事に対する姿勢は、幼児の言動の仕方や考え方のモデルとなることから、環境として大事な役割を担っているということを、心にとめなければならない。また、適切な環境の構成は明確なねらいと内容によって行われるものであり、環境の考え方があいまいだと活動が幼児によって選択、展開される方向性が見失われ、場合によっては、自由放任になりかねない。環境構成を考えるとき、いろいろな遊具、用具、素材などを組み合わせたり、並べたり準備したりするような物の構成のみを指しているのではない。周囲の自然や社会事象など身じかなものや出来事などに関心をもたせ、幼児の生活に意味をもつようにすることや、幼児同士のコミュニケーションを図ったり、幼児の発想や活動を交流させることも大切なことである。

### <具体的な環境を考える視点>

- 具体的なねらいや内容に適していること。
- 発達の時期に即していること。
- 興味や欲求に応じていること。
- 生活の流れに応じていること。

また、環境は固定的なものではなく、「環境は幼児の生活する姿や発想を大切に適切なものとなるようにすること」と教育要領に示されているように、展開する活動に応じて幼児が必要な体験を重ねていけるように、常に再構成していくことが大切である。

### カ、予想される活動とは

「幼稚園教育は、幼児自ら主体的に環境にかかわることにより生み出される、具体的な活動を通して行われるものである」とされている。この場合、幼児がどのような環境にかかわっていったら、活動を展開するのか、活動の生まれ方を理解し、活動の予想をする。

- ① 幼児の発達を見通し、具体的なねらい、内容を設定する。
- ↓
- ② 具体的なねらい、内容に基づいて、環境を構成する。
- ↓
- ③ その環境に幼児がかかわり、活動を展開する。
- ↓
- ④ 幼児が望ましい方向に向かって活動できるよう、必要な援助をする。

上記の活動の生まれ方で特に注意すべき点は、②から③の流れであり、環境とのかかわりで生まれる活動は、活動が生まれる背景には何があるのか、また、どのような環境の要因が幼児の活動を引きおこしているのかなど、幼児をとりまく環境と活動との関係を知ることが大切である。

### キ、教師の援助のあり方

幼児が環境にかかわって、さまざまな活動を生み出す主体的な営みを大切にする中で、教師の援助の仕方は、さらに重要視されなければならない。教師の援助はその時期・時期の幼児の育ちや活動の状況によって、幼児とのかかわり方が異なることになり、日々の幼児の生活する姿から心の動きを捉えた内面理解をし、環境にかかわって活動する姿を予想し、どのような援助が必要か、環境を再構成することや承認、激励、助言などの直接的な援助を行うことであり、あくまでも幼児が自分で活動を展開し、ねらいを達成していけるように援助を行うことが大切である。

### <具体的な援助のあり方として>

- 一人一人の努力したことを一緒に喜びながら、励まして行く。
- 一人一人の力をいろいろな場で認める。
- 仲間同士で遊びを進めていく姿を大切にする。
- 小さなきっかけを捉えて、さまざまな活動に広げていけるようにする。
- それぞれの活動の中で、自分のよさが発揮できるように知らせていく。

## ク、指導計画作成上、特に留意する事項

- ・安全に関する指導に当たっては、状況に応じた行動がとれるようにする。
- ・心身に障害のある幼児の指導に当たって配慮する。
- ・社会性や豊かな人間性をはぐくむための指導に配慮する。
- ・行事の指導に当たっては、教育的価値を十分検討し、幼児の負担にならないようにする。

## ④ 短期の指導計画の作成（週、日案）

### ア、週案について

短期の指導計画は長期の指導計画の基本的な考え方を基にして、週や日の指導計画として、より一層幼児の実態に即したものでなければならない。一週間一週間は、幼児の生活や心理的な点から考えても、自然な一区切りといわれている。週の指導計画を考えると「今週は何をするか」「明日は何をするか」という検討ではな、「幼児はどのように成長してきているか」「幼児の興味、関心、欲求は何か」等一人一人の幼児理解を深め、特に心情、意欲、態度の側面を見取る実態把握を中心課題としなければならない。

### イ、週案作成に当たっての留意事項

- ・園全体で話し合っ、幼児の姿から実態把握を深める。
- ・長期の指導計画のねらい及び幼児の実態を検討し、幼児の姿から育てたいことを見取り、週のねらいを設定する。
- ・週の生活の流れが不自然にならないように、生活の流れを工夫する。
- ・幼児を取り巻く環境が適切であるかどうか検討する。
- ・教師の援助は、個々の幼児に沿ったものであるように配慮する。
- ・幼児の生活を見通し、家庭との連携や地域とのかかわりを配慮する。
- ・一人一人の幼児の姿についての記録を基に、週の幼児の生活の目安を立て生活の展開を考える。



5. 教育課程・年間指導計画の現状と見直し

(1) A園の現在の教育課程

週数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	35	36	37	38	39	40	41	42				
月期	4月			5月				6月			7月				9月				10月				11月				1月				2月				3月							
	1期							2期							3期							4期							5期													
発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集団生活の経験のある子や、初めての子どもなど個人差が大きい。</li> <li>○友達とかかわり合って遊んでるようだが、はっきりしたつながりはなく、ひとり遊びが多く。</li> <li>○先生や友達と一緒に過ごす楽しさがわかりはじめ。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達に関心を示すようになり、気のある友達と話し合っ遊ぶ楽しさがわかる。</li> <li>○自己主張が強くなり、トラブルが多くなるが自分達で解決しようとする姿も見られる。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○長い休みの後で、覚悟の様子に個人差があるが、4月のようなまどいはなく、徐々に安定していく。</li> <li>○全体的な活動もさかになり、試したり、挑戦したりしながらいる運動あそびに、進んで取り組む姿が見られる。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達同士互いの考えやイメージを出し合いながら相手を見て遊びを進めているようになる。</li> <li>○身近な自然の変化などに興味をもち、動きかけていくすがみられる。</li> <li>○もうすぐ1年生という自覚から、生活態度がしっかりして、自信をもって行動で</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びの中で起きた問題についてグループで話し合っ解決しようとする姿がみられる。</li> <li>○大勢の話しを聞くことに慣れ、緊張の持続時間も長くなってくる。</li> </ul>													
育ちの節目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい生活のはじまり</li> <li>○教師とかかわり安定する期間</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分と友達</li> <li>○気の合った友達とのかかわりで安定する時期</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の力を出し合っ</li> <li>○新たな友達にかかわっ</li> <li>○いく時期</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○みんなの力を合せて</li> <li>○友達を受け入れ、リーダー中心にまどまろうとする時期</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○充実した園生活</li> <li>○自分の力を試しながら楽しんでいこうとする時期</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○創り出す生活</li> <li>○話し合いながら創り出し知的欲求の高まりを見せる時期</li> </ul>						
ねらい及び内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○喜んで登園して先生や友達との生活に親しみをもつ。</li> <li>○自分の好きな遊びを見つけ安定感をもって遊ぶ。</li> <li>○幼稚園生活に必要なまりのあることを知る。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒に遊びや仕事を進める中で、共通のイメージをもってあそぶ楽しさを味わう。</li> <li>○身近な事象に関心をもち、遊びの中に取り入れようとする。</li> <li>○いろいろな遊具や用具に関心をもち、望ましい使い方を知らうとする。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の中で、自分の力を試しながら、いろいろな遊びに、グループや学級全体友達と協力して遊びを進めようとする。</li> <li>○身近な自然や社会の出来事、様子に興味や関心をもち。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○共通の課題に向けてグループの友達と考え工夫しながら、みんな協力して楽しむ。</li> <li>○自分の気持ちを言葉や身体で表現し、伝え合うう喜びを味わう。</li> <li>○生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</li> </ul>							<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分達で園生活を進めていき、相手に考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりしながら、楽しんで遊びをすすめる。</li> <li>○園や学級全体の課題に見通しをもっ取り組む中で、みんなで気持ちを合せてやりとげた満足感を味わう。</li> </ul>													

(2) 改善したA園の教育課程

期	1期			2期				3期				4期				5期																											
月	4月			5月				6月				7月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月			
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	
発達の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集団生活の経験のある子や初めての子の個人差が大きい。</li> <li>○友達とかかわりあって遊んでるようだが、はっきりしたつながりはなく、一人遊びが多い。</li> <li>○友達や先生と一緒に過ごすことに喜びを感じている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達に関心を示すようになり、気の合った友達と話し合っ遊んでいる。</li> <li>○自己主張も多くなりトラブルも多くなるが、自分たちで解決しようとする様子も見られる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○長い夏休みの後で登園の個人差はあるが、徐々に安定していく。</li> <li>○全体的な活動もさかになり、試したり、挑戦したりしながらいる運動あそびに、進んで取り組む姿が見られる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達同士互いの考えやイメージを出し合いながら、相手のよさを認め遊びを進めている。</li> <li>○身近な自然の変化などに興味をもち、動きかけていく様子がみられる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びの中で起きた問題について、グループで話し合っ解決しようとする姿が見られる。</li> <li>○話を聞くことが上手になり、緊張の持続時間も長くなってくる。</li> <li>○もうすぐ1年生という自覚から、生活態度がしっかりし、自信をもって行動するようになり、知的好奇心の高まりも見られる。</li> </ul>																											
育ちの節目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい生活のはじまり</li> <li>○教師とかかわり安定する時期</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分と友達</li> <li>○気の合った友達とのかかわりで安定する時期</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の力を出し合っ</li> <li>○新たな友達にかかわっ</li> <li>○いき、共に生活していく楽しさを知らう時期</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○みんなの力を合せて</li> <li>○友達を受け入れながら、自分の力を試したり挑戦したり、意欲的な生活をしていく時期</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○充実した園生活</li> <li>○友達と話し合いながら目的をもって生活を展開する時期</li> </ul>																											
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○喜んで登園し、先生や友達との生活に親しみをもつ。</li> <li>○自分の好きな遊びをみつけ安定感をもつ。</li> <li>○幼稚園生活に必要な決まりがあることを知る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒に遊びや仕事を進める中で共通のイメージをもって遊ぶ楽しさを味わう。</li> <li>○身近な事象に関心をもち、遊びの中に取り入れようとする。</li> <li>○いろいろな遊具や用具に関心をもち、望ましい使い方を知らうとする。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の中で自分の力を試しながら、いろいろな遊びに、グループや学級全体の友達と協力して遊びを進めようとする。</li> <li>○身近な自然や社会の出来事、様子に興味や関心をもち。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○共通の課題に向けてグループの友達と考えを工夫しながら、みんな協力して楽しむ。</li> <li>○自分の気持ちを言葉や身体で表現し、伝え合う喜びを味わう。</li> <li>○生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分達で園生活を進めていき、相手に考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりしながら、楽しんで遊びを進める。</li> <li>○園や学級全体の課題に見通しをもっ取り組む中で、みんなで気持ちを合せてやりとげた満足感を味わう</li> </ul>																											
育ちへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人園生活への取り組みに個人差があることを充分配慮し、それぞれ思いをくみ取ってあげ援助する。</li> <li>○生活の流れや環境の構成ははや決まっ形で展開し、安定させた。</li> <li>○教師と一緒にいることで安定していることを配慮し、一人一人の思いをじっくり聞いてあげる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○好きな遊びを友達と一緒に取り組んでいけるように、時間と場所を充分に保障し、見守る。</li> <li>○自己主張のぶつかり合いは、相手の存在を認める機会であると捉え、自分たちで解決する様子を見守ったり、方向づけたりする。</li> <li>○自然とかかわり、小動物、草花とかかわり、子どもの発見や驚き、試したりする様子を見守り、結論を教えるのではなく、ゆっ取り受け入れてあげたり共感したりする。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の行動に興味をもっ、自分もやってみようとする気持ちを大切に、全体での課題に向かうことを喜びとするように援助する。</li> <li>○小学校と一緒に行動する誇らしさ、保護者に見てもらっ喜びを味わう機会として捉える。</li> <li>○運動会は幼児の興味があるもの、日常的なものを取り入れる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろな活動に意欲的に取り組み、挑戦したりする欲求を満たす環境を子どもと一緒に構成していく。</li> <li>○できるようにするのではなく、「好きになれる」ということに重点をおく。</li> <li>○園生活の中で、任せられるものは子ども達のにゆだね、自信をもって行動させたい。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動の規模が大きくなり、落ち着きがみられる頃である。じっくり遊べる場や手ごたえのある活動ができる環境を配慮する。</li> <li>○知的欲求を満たしてあげられるような環境、遊びを子どもと一緒に取り入れていく。</li> </ul>																											

◆改善したこと

◎発達の姿から生活がおおきく変容する時期を節目と捉え、育ちの節目を5期にした。

◎「ねらい」は幼児がこういう方向に育ってほしいと願うものであり、長期的な見通しをもって育てたいこと「ねらい」を相定した。育ちの時期、時期に展開される生活にふさわしい「ねらい」になるように「育ちへの対応」をつけ加え、工夫することで、発達する姿のよみとりを意識し、どのような環境構成をし、教師の援助はどうあればよいか等の視点とした。

(3) 現状 例4月

項目 月	幼児の姿	ねらいと内容	環境構成及び教師の配慮	行事
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集団生活の経験のある子やはじめの子など個人差が著しい。</li> <li>○友達と関わりあって遊んでいるようだがはっきりしたつながりはなく、一人遊びが多い。</li> <li>○保育園や近所の友だちになどを中心に遊びはじめる。</li> <li>○はしゃいだり、むやみに動きまわったりしておちつかない子がいる。</li> <li>○園内の小動物とかかわることで安定する子もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎喜んで登園し、園生活に慣れる。</li> <li>○自分のクラス場所などがわかる。</li> <li>○友だちや先生と、元気におそぶ。</li> <li>○自分の持ち物を始末する。</li> <li>○いろいろな遊具の使い方がわかる。</li> <li>○通園路を知って安全に登降園をする。</li> <li>○友だちといっしょに、うたをうたったり絵本や紙芝居を見たり聞いたりする楽しさをあじわう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入園当初は、少しの変化にも戸惑う子がいる。毎日、保育室の様子を変えるのではなく、安定する時期を見計らいつつ、徐々に生活しやすいように変化させてい。</li> <li>○安全にあそべるように遊び場や遊具の点検を充分にしておく。</li> <li>○一人一人の姿を把握しながら、幼児との信頼関係をつくり安心して遊べるようにする。</li> <li>○園内めぐりをして園の様子をわからせ、安心して生活ができるように雰囲気づくりをする。</li> <li>○一人でも遊べる遊具や絵本を準備し、家庭での遊びが延長できる親しみやすい保育環境を整えておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入園オリエンテーション</li> <li>安全点検</li> <li>入園式</li> <li>家庭訪問</li> <li>ミルク開始</li> <li>誕生会</li> <li>尿・蛭虫検査</li> <li>交通安全指導</li> <li>歯科検診</li> </ul>

(4) 見直し 4月指導計画

幼児の姿	ねらい	内容	行事
<ul style="list-style-type: none"> <li>○初めての園生活に期待している子と、不安をもって子どもなど個人差が著しい。</li> <li>○友達と関わって遊んでいるようだが、はっきりしたつながりはなく、一人遊びをしている子もいる。</li> <li>○保育園での友達、隣近所の友達などを中心に遊びはじめる。</li> <li>○積極的に話しかけてくる子や教師に声をかけてもらおうのを待ち、かかわりをもつことを期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○喜んで登園し、先生や友達と遊びを楽しむ中で園生活に慣れる。</li> <li>○自分の好きな遊びをみつけて安定感をもって遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気に言った場所や、親しみのある友達と遊ぶ。</li> <li>○教師や友達と一緒に遊んだり、話したり歌をうたったりする楽しさをあじわう。</li> <li>○所持品の始末の仕方、室内外の施設の使用する。</li> <li>○通園路がわかり、安全に登降園をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園式</li> <li>・交通安全指導</li> <li>・家庭訪問</li> <li>・尿、蛭虫検査</li> <li>・歯科検診</li> <li>・誕生会</li> <li>・ミルク開始</li> </ul>
教師の援助と配慮		環境構成	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○玄関で「〇〇ちゃんおはよう」と声をかけ挨拶をかわし、温かく迎える。</li> <li>○入園当初は少しの変化にも戸惑う子がいるので、毎日、保育室を変えるのではなく安定する時期を見計らいつつ、徐々に生活しやすいように変化させていく。</li> <li>○一人でも遊べる遊具や絵本を準備し、家庭での遊びが延長できる環境を整えておく。</li> <li>○泣いている子、不安そうにしている子にはそのまま寄り添い、気が紛れるように話しかけたり、他の子が遊んでいる様子を見たりしながら、楽しさが見つけられるようにしていく。</li> <li>○園内巡りでいろいろな場所や、遊具、用具がわかり、進んでかかわって遊べるようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全に遊べるように遊び場や遊具の点検を充分にする。</li> <li>○家庭生活の延長としての遊具 折り紙、パズル、絵本。ブロック、ままごとコーナー、人形、積み木等を用意する。</li> <li>○道具棚や靴箱、雨具かけ等に覚えやすいようにシールで印をつけておく。</li> </ul>	

◆改善・工夫したこと

◎週案の幼児の姿や反省を基に「幼児の姿」「ねらいと内容」、「環境構成及び教師の配慮」、「行事」の各項目の内容を見直した。  
特に「教師の援助と配慮」、「環境構成」を具体的にすることで「ねらい」が達成され、発達を促すための活動や経験ができるように工夫した。

(5) 現状 例1月

項目 月	幼 児 の 姿	ね ら い と 内 容	環 境 構 成 及 び 教 師 の 配 慮	行 事
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正月遊びやゲームを通して数字や文字に関心を持ったり、生活の中で活用している姿がみられる。</li> <li>○冬休み中にこまが回せるようになった、なわとびの回数が増えた等、得意そうに友達に知らせ、友だちもそれを喜んでいる。</li> <li>○休みの中の様子を伝え合いながら、同じ経験をした幼児同士は会話がはずむ。</li> <li>○冬休みの中の経験からカルタやゲーム作り、たこ作り等への発展が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎正月あそびをみんなで考え、工夫して遊ぶ。</li> <li>◎自分の思っていることや、考えをクラスの皆の前で発表する。</li> <li>○遊びの中で文字や数に関心を持つ。</li> <li>○これまでの経験を生かし表現活動をする。</li> <li>○一人一人の思いをダンス、劇などで表現して喜ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と工夫して活動が楽しめるように遊具・用具を準備しておく。</li> <li>○家庭で経験したお正月遊びをクラスやグループ遊び、友だちとのつながりを深め、自分たちでルールを話し合ったり遊びかたを伝えあっていく様子を大切にできるように配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検</li> <li>三学期始業式</li> <li>身体検査</li> <li>保育参観</li> <li>誕生会</li> <li>ムービーづくり</li> </ul>

(6) 見直し 1月指導計画

幼 児 の 姿	ね ら い	内 容	行 事
<ul style="list-style-type: none"> <li>○冬休み中にこまが回せるようになった、縄跳びの回数が増えた等、得意そうに友達に見せながら、一緒に喜びあっている。</li> <li>○かるた遊びやゲーム遊びを通して、数字や文字に関心をもち、生活の中に取り入れて遊んでいる。</li> <li>○冬休みの経験からかるたやゲームづくり、凧作り等への発展が見られる。</li> <li>○ゆうぎ会に向けて友達同士で話し合ったり自主的に練習している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒に、生活の仕方や遊び方を考えたり、工夫しあい、つながりを深める。</li> <li>○グループやクラスの友達と一緒に、共通の課題に向けて熱心に取り組む協力して遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒に、勝敗のあるゲームやルールのある遊びを楽しむ。</li> <li>○自分の思いを文字や絵にかいて、相手に伝え喜ぶ。</li> <li>○これまでの経験を生かして、ダンスや劇あそび等、表現活動を楽しむ。</li> <li>○お互いの考えを出し合い、「なぜ?」と考えたり、教えあったりしながら、遊びを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三学期始業式</li> <li>・身体計測</li> <li>・保育参観</li> <li>・誕生会</li> <li>・ムービー作り</li> </ul>
教 師 の 援 助 と 配 慮		環 境 構 成	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師から「あけましておめでとうございます。」と芯値の挨拶を交わし新学期に期待がもてるように、子ども達を温かく迎える</li> <li>○お正月経験した生活や遊びなどを伝え合い、友達と遊びを創っていきけるよう援助する。</li> <li>○年賀状ごっこ、かるた取り、トランプあそび等の経験を通して、「字が書けるようになりたい」「読んでみたい」という要求が満足できるよう遊びの時間を充分にとる。</li> <li>○その日の気温や体調に合わせて衣服を着たり、脱いだり、汗を拭いたりする行動ができるように助言する。</li> <li>○沖繩の昔からの伝統行事「ムービー」の意義を話しや絵本を通して知らせる</li> <li>○ゆうぎ会をどのように進めて行くか話し合い、子ども達の意見を取り入れ、自主的にかかわりを楽しめるようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達とトランプやかるたあそびができるように、何組か用意する。</li> <li>○寒さに負けず戸外で楽しく遊べるように、ドッチボウルの円を描いたり、マラソンのラインを引き、音楽の用意をし、教師も一緒に走り冬の空気の中ではしる気持ちよさを一緒に味わう。</li> <li>○こまあそびえおする時の取り扱いや場所などを決め、安全面に配慮する。</li> <li>○凧作りができるようにビニール、ひご棒、凧糸、和紙、セロハンテープ等を用意して置く。</li> <li>○新年を迎えた喜びが十分に感じられるように、年賀状や凧を飾るなど新年の雰囲気ができるように、環境を整える。</li> <li>○風邪の予防のため、水道付近にうがいや手洗いのポスターをはる。</li> <li>○手紙のやりとりが楽しめるように郵便ポストなどを用意する。</li> </ul>	

◆改善・工夫したこと  
 ◎週案の幼児の姿や反省を基に「幼児の姿」「ねらいと内容」、「環境構成及び教師の配慮」、「行事」の各項目の内容を見直した。  
 特に「教師の援助と配慮」、「環境構成」を具体的にすることで「ねらい」が達成され、発達を促すための活動や経験ができるように工夫した。

## (7) 教育課程・年間指導計画の見直し<考察>

### ① 教育課程

- ◎ 幼児の生活する姿から、生活が大きく変容する時期を節目と捉えた場合に、1月～3月の幼児の姿は、自分の考えを友達に伝えたり相手の考えを受け入れたりしながら遊びを楽しく進めて行くことができる。
- ◎ ゆうぎかいや自慢大会などの行事を通して、園や学級全体の課題に見通しを持って取り組むことができるようになったり、やりとげた満足感で自信をつけるなど、生活の仕方に落ち着きがみられる。
- ◎ 残り少ない幼稚園生活を意識しながら、一生懸命に遊びに取り組み園生活を充実させようとする。
- \* このような幼児の生活する姿を大事にし、幼稚園生活の仕上げとしてゆとりを持って園生活を過ごさせたいと考え、1月～3月を（充実した園生活）5期とした。
- \* 長期的な見通しをもって育てたいこと「ねらい」を想定した。育ちの時期、時期に展開される生活にふさわし「ねらい」になるように、「育ちへの対応」を付け加え、工夫することで、発達する姿のよみとりををより意識し、どのような環境構成をし、教師の援助はどうあればよいか等の視点とした。

### ② 4月指導計画

- 発達の様 ◎ 集団生活の経験のある子と初めての経験の子など個人差ある。
- 育ちの節目 ◎ 新しい生活のはじまり（教師とのかかわりで安定する時期）
- 育ちへの対応 ◎ 一人一人の園生活への取り組み方に個人差があることを十分配慮し、それぞれの思いをくみ取ってあげ援助する。（その他、教育課程1期を参照）

- \* 週案の幼児の姿や反省・評価を基に「幼児の姿」、「ねらいと内容」、「環境構成及び教師の配慮」、「行事」の各項目の内容を見直した。特に「教師の援助と配慮」、「環境構成」を具体的にすることで「ねらい」が達成され、発達を促すための活動や経験ができるように工夫してみた。

### ③ 1月指導計画

- 発達の様 ◎ 遊びの中でおきた問題について、友達と話し合っ解決しようとする。また、しずかに話を聞くことができたり、もうすぐ一年生という自覚から、自信を持って生活する。
- 育ちの節目 ◎ 充実した園生活（友達と話し合いながら目的をもって生活を展開する）
- 育ちへの対応◎ （教育課程5期を参照）

- \* 週案の幼児の姿や反省・評価を基に「幼児の姿」、「ねらいと内容」、「環境構成及び教師の配慮」、「行事」の各項目の内容を見直した。特に「教師の援助と配慮」、「環境構成」を具体的にすることで「ねらい」が達成され、発達を促すための活動や経験ができるように工夫してみた。



すみれぐみ指導案

平成11年1月13日(水)  
在籍 男児 18名  
女児 17名 計35名  
担当 安里 初枝

1. 実態(前目の姿)

- かるたあそびを通して、しりとり遊びに発展しカードに文字や絵をかき壁面に貼ってもらいよるこんでいる。
- 友達の良いさを認め合いながら協力して、ダイヤブロックで飛行機基地作りを楽しんでいる。
- 興味のある遊び(こま回し、かるたとり、グロック等)に自分なりに繰り返し取り組んでいる。
- かるた遊びやドッチボールなどでトラブルが生じた際、互いの思いを言いながら解決しようとしたり、周りの子が思いを伝えたりしながら、子ども同士で解決しようとする姿もみられる。
- ゆうぎ会に期待し、やってみたいオペレッタやダンスを自分で決め、練習に参加している。

2. 週のねらい

- お正月遊びをみんなで考え、工夫して遊ぶ。
- おゆうぎ会に興味をもち、友達と喜んでゆうぎの練習をする。

3. 本日のねらい

- 遊びに必要なものを友達と一緒に考えて作ったり、用意したりする。
- 遊び方やルールを考えて、戸外あそびを楽しむ。

4. 内容

- お正月に経験した遊びや、今までに遊んだことのある遊びを友達と一緒に楽しむ。
- 友達とルールを考え守ったりしながら、ドッチボールやデルタスクーターあそびを楽しむ。

「ちょっときてごらん すごいのができたよ」  
リーダーシップをとりたがりトラブルも多かったが、このごろ落ち着いてきて回りから認められてきたY君が呼びに来た。  
「とにかくすごいよきて」と笑顔いっぱい手をひっぱってその場に連れて行った。そこではA君が一生懸命にダイヤブロックを積み上げ何か作っている。一箱全部使っている。すごい根気のいることをしたと関心した。「すごい 何をつくっているの」とたずねるとY君とA君「僕たち一緒に考えて作ったんだよ。なあ」ほこらしげに伝えている。  
Y君「これがスペースシャトルでこれは事務所でここは宇宙基地だわけよ」A君「ここはエレベーターでここが階段で、ここはトンネルで行くことができるわけよ」  
「どこへ行くことができるの」と訪ねると、「シャトルにのりに行くわけよ」とY君が付け加えた。  
「先生、こわさないでおいでください」とA君がいったので回りの子ども達に頑張ったことを知らせながらそうだんすることにした。  
I君「すごい、僕も作りたい」と言いながらさわったので、Y君「さわるな。またこわすだろう」といっておこった。I君は「明日、作るのいいね。なまに入れてもらおうといいじゃない。先に使っている人がいた仲間に入れてと言うことも大事なことです」とアドバイスすると素直に「うん」と答えた。実際に飾っておくことにした。

ざりがにおおきくなったよ  
I君「せんせい、ざりがにの赤ちゃんもおおきくなったよ。つめもおおきくなってきたし、洋服だって脱いだんだよ。」  
「なに、脱皮したの」といながら水槽をのぞきこみ「しばらく見ないうちにすいぶん大きくなったね。I君も世話してあげているの」とざりと隣でいっしょにざりがにを見ていたK君が「I君はしないよう、ぼくは時々やっているけど」といった。「K君、世話してくれているんだ。それで元気に大きくなっているんだね。ありがどうね」するとI君「僕も明日からやりたい」と言った。「わあ、うれしい、ざりがにさんの世話するひが増えた。K君よかったね。I君おもしろい頑張りだね」(時々、わがままで、乱暴なI君、やっぱりやさしい子なんだね)

12+12=?  
U君とS君とM君と三人で何やら話し込んでいる。指を曲げたり伸ばしたりしながら…  
U君が突然近づいてきて「せんせい12+12=いくらねえ」  
「どうしたの」と訪ねると「とにかくいくらねえ」と答え求めている。  
「U君の指かして、U君の指は何本ある?、せんせいの指は10本」  
「僕のも10本」「せんせいの10とU君の10と合わせて何本?」問い返すと少し間をおいて考え「20」と答える。  
「20を覚えていてよ、U君の2とせんせいの2と合わせると何本?」  
と問い返すとすぐ「4本」と答え「24でしょう」と答えを言い、他の二人に「やっぱりな」といって時計の話しを始めた。(友達と考えながら、教え合いながら楽しそうに会話をしている)

週案 平成11年 1月(11日~16日) 34週						備考	
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お正月遊びを友達どうして教え合ったり、相談したりしながら楽しんでいる。</li> <li>○おゆうぎ会に向けて友達どうして話し合ったりしながら、自主的に練習している。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>○お正月あそびをみんなで考え、工夫して遊ぶ。</li> <li>○おゆうぎ会に興味を持ち、友達と喜んでゆうぎの練習をする。</li> </ul>	
行事及び活動	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)	16日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>うた</li> <li>○ たこのうた</li> <li>○ ようこそ(お遊戯会用)</li> <li>・ こいのぼり</li> <li>・ とんぼのメガネ</li> <li>・ 北の国から</li> <li>・ ドキドキ一年生</li> <li>○ やぎさん郵便</li> <li>○ 十二支かぞえた</li> <li>○ 手遊ば</li> <li>○ 初夢ヨイヤサ</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>リズム</li> <li>○ ロックンオムレツ</li> <li>○ ラテーナ</li> <li>○ 異人伝説</li> <li>○ 宇宙人ふるふる</li> <li>○ エイサー</li> <li>○ ねずみのラリー町へ行く</li> <li>○ 鳥の王様コンテスト</li> </ul>
予想される活動・環境構成・教師の援助	子ども朝会 10:00 ○ 動物のついで リズム・オペ・エイサー 身体計測(さくら)	9:30 片づけ 10:00 リムの練習 10:30 劇の練習 絵本返却・TVしぜん	9:30 片づけ 検証保育 (ひまわり)	9:30 片づけ 10:00 リムの練習 10:30 劇の練習 お弁当 TVつくってあそぼう	9:30 片づけ 10:00 リムの練習 10:30 劇の練習 絵本貸し出し	9:30 片づけ 10:00 リムの練習 10:30 劇の練習	
反省・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お正月遊びがいつでも出来るように、遊具を目につきやすい場所に準備しておく。</li> <li>○寒さに負けず、運動遊び(戸外あそび)が楽しくできるよう、安全面も考慮しながら積極的に取り組んでいく。</li> </ul>					三学期始めの登降園の再確認 ○道の歩き方 ○寄り道をしない	基本 ○かぜが流行しているので、衣服の調節やうがい、手洗いを励行しかぜの予防に心がける。 ○うがい、手洗いをしましょう

○ 幼児側から出てくる予想される活動

□ 教師が刺激して出していく活動

☁ 環境構成・教師の援助

## (2) 活動の展開

時間	予想される活動・流れ
8:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登園               <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをする</li> <li>・所持品の始末をする</li> <li>・出席ノートにシールを貼る</li> </ul> </li> <li>○草花への水やり</li> <li>○小動物の世話をする (ザリガニ、うさぎ、かめ、金魚)</li> <li>○好きな遊びを楽しむ (室内)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・かるたとりをする</li> <li>・ブロック遊び</li> <li>・しりとりあそびやカードづくりをする</li> <li>・マルチハウスの積み木を楽しむ</li> <li>・遊びに必要なものをつくる (風、すごろく、福笑い) (戸外)</li> <li>・ドッチボールをする</li> <li>・デルタスクーターをのる</li> <li>・固定遊具で遊ぶ</li> <li>・風あげをする</li> </ul> </li> </ul>
9:30	○みんなで片付ける
10:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身体計測を受ける(ひまわり組)</li> <li>○学級でのひととき               <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の活動を話し合う</li> <li>・絵本をみる</li> </ul> </li> </ul>
10:30	○おゆうぎかいの練習
11:10	○ミルクを飲む
11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○降園前のひととき               <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の遊びをふりかえる</li> <li>・降園の支度をする</li> </ul> </li> </ul>
12:00	○降園

### ◆環境構成と教師の援助

- 気持ち良くあいさつを交わし、視診をしたり、コミュニケーションをもつ。
- 身の回りの始末をしながら活動を促す言葉かけをする。
- 自分から遊びに取り組めない子には、昨日の遊びを思い起こさせながら遊びへの意欲を高めていく。
- 友達同士で活動しはじめる姿を見守る。

- 動植物の世話やかかわりをもつことで、愛着や発見、命の尊さを感じることができるよう、一緒に喜んだり、共感したりする。

### ☆ かるたとり、しり取り遊び

- 読める子にはまかせ、できない所は教師が手伝う。
- 教師も仲間入りし、かけひきの楽しい雰囲気と一緒に楽しむ。
- おもしろ言葉遊びを感動したり、認めたりしながら、考えることをたのしませる。

### ☆ 遊びに必要なものを作る

- (イメージにあった材料を選び工夫してつくる)
- 子ども思いを捉え、一緒に材料を探したり、準備したりする。
- おもしろいアイディアや工夫したことを認め、他児にも伝える。
- はさみやセロハンテープ、マーカー、ひご棒など使いやすいように、教具置きワゴンの近くにコーナーをつくる。

### ☆ 教師も一緒に手早く片付ける

### ☆ 学級でのひととき

- 今日の楽しかった事などを話し合い、明日の活動へ期待させる。
- できるようになったことや頑張っている姿を周囲に知らせ。認めあったり、喜びあったりする気持ちを育てる。

### ★風づくり

- M子「先生、風作りたい、教えて」  
 T「どんな風をつくりたいの」  
 M子「ダイヤの形にしたい」といいながら、はさみとくれよんを用意する。  
 T「形をかくからM子は、切って好きな絵を描いてね」と言いつつ手助けをしているとM子に刺激され、風作りしたい仲間が増えた。  
 I君「先生、ぼく風作る名人だよ」といって、おおざっぱではあるが、手早く作りはじめる。  
 T「すごい、I君風つくるの早いね。だれに教えてもらったの」  
 I君「お父さんにだよ、ぼくのお父さんも名人だよ」  
 T「しつぽの準備するから、M子とI君、お友達に教えてくれる」と頼むと「いいよ」と返事が返ってきた。



- ・風を作る仲間が増え、作ることで片付けの時間になり、風あげを子ども達と一緒に楽しむことができなかった。明日は供美先生と風あげを楽しんでほしい。

★<こんどいっぱいとりからね>

昨日の続きのかるたとりがはじまる。

H子「わたしがよむひと」といいながらA子とE子が、並べているのを待つ。

T「H子が読むの、がんばってね」

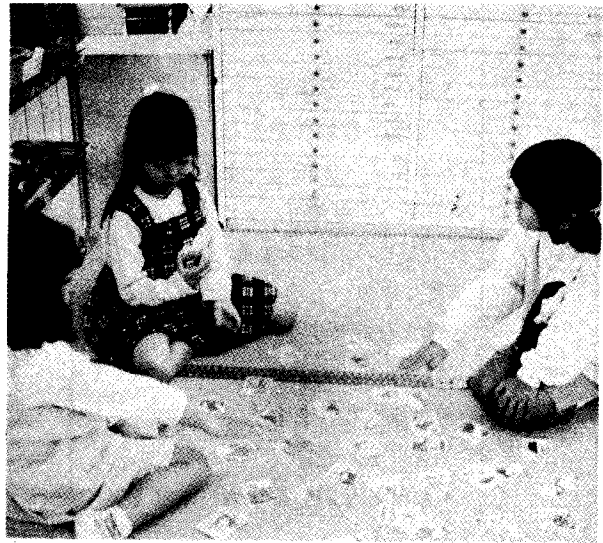
A子「よんでいいよ」といいながら自信たっぷりの表情をしている。

H子が読み始めると、A子はどんどん取っている。

H子「E子、じぶんのところもよくみないからよ」あまり取っていないE子に気づかって、アドバイスをしている。

E子「こんどたくさんとりからね」とくやしそうにしながらも二回目に挑戦し、楽しんでいる。

T「H子、かるたよみじょうずだね。A子もE子も、じがよめるようになっただね、すごい、E子もまえよりたくさんとれたね。よかったね」



★すごろくあそび {こんどがんばればいいさー}

M子「こんなすごろくおもしろくない」と怒っている。

T子「おこらないで、自分でまけているんだからしかたないでしょ」

お母さんのようにやさしく、なだめている。

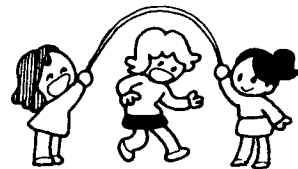
M子「だってさいごだもん」まだ、怒っている。

T子「ゲームなんだから、おこったらみんな楽しくないでしょう」

N子「そうだよ、おこらないで、こんどがんばればいいさー」

他児「そうだよ、おこらないで」と口々に言って、続きを楽しみたい様子。

T「Mちゃん、まけたり、かったりするからゲームは楽しいのよ。こんど6か5がでますようにと心の中でおまじないしてごらん」と助言するとM子、T子、N子他の子も自分の番になるとおまじないをはじめながらさいころわころがしている。



<考察>

- ◎自分のできることや知っていることを友達に教えたり、一緒に考えたりすることができている。
- ◎自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを受け入れながら、力を合わせ遊びを進めている。
- ◎友達を励ましたり、思いやったりしながら友達とのつながりを深めている。
- ◎かるたやトランプ遊びなどを通して文字や数字に関心を示している。
- ◎友達の良さを認め、自分もやってみようとしている。
- ゆうぎかいや自慢大会において、みんなで気持ちを合わせて取り組みながら自分の力を発揮し、自信をもって行動できるようになってほしい。

### (3) 検証保育を終えて

#### ① 保育者の反省

ア、遊びに必要な凧、すごろく、福笑いなど、友達と考えを出し合ったり教え合ったりしながら作っている。製作の時間が短く大多数の子が凧揚げを楽しむことができなかつたので、次回は工夫したり試したりしながら遊べるように、時間の確保をしたい。

イ、数人で凧揚げをしているが、十分楽しめる場所の確保ができていなかったり、教師の援助が手薄なため、友達の凧と絡まったり、ぶつかったりし、遊びが中断した。教師みんなでかかわり楽しく遊べる援助や環境構成を工夫したい。

ウ、福笑いは教師もかかわりながら、目隠しを交替しながら、楽しんでいる。

エ、すごろくは、子ども達のアイディアを生かした遊び方があったり、遊びの中で起きたトラブルを解決していこうとする姿がみられ、考えを出し合って、楽し遊びを進めている。

#### ② 質疑・意見・感想

ア、環境を通して、一人一人を伸ばしていくというねらいからすると幼稚園の在籍が35人は多いと感じた

イ、片付けの合図の放送があった時に、大きなブロックを力を合わせて片付けている様子を見て、幼稚園の中で協力の芽が植え付けられているのだとわかった。

ウ、子ども達は遊びを楽しんでいた。遊びを任せることで子ども同士がかかわり合っ  
て、工夫をして、遊びが充実し、互いの良さを認め合えるようになると思う。

また、自分の気持ちや相手の気持ちに気づくようになり、協調性や思いやりの心があり育っていくと思う。

エ、問題を教師が解決するのではなく、子ども達に考えさせることにより、助け合いを学ばしていた。

#### ③ 指導助言（新城トシエ中頭教育事務所主任指導主事）

本時は子ども達の育ちの過程の第5期にあたり、静かに話が聞けるということや文字や数字に対する関心を持たせ、小学校へつなげていくねらいもある。今回の研究の改善点は、従来の6期を5期に改善し、意欲的な検証であった。環境構成は小学校の生活科の基本である。小学校につなげていくためには、どのような遊びを取り入れるかということである。例えば、子ども達の興味や関心のあるかるたやすうじカードなどを準備しておくなど。志真志幼稚園の環境構成は室内外とも、恵まれている。木々の種類も多く、自然環境も整備されている。その環境を子ども達の育ちにどのように生かすかは、教師の感性であり、今日保育はねらいが達成され、すばらしい。凧あげがなかなかできずにいた子ども達の近くに教師がいなかったため、うまく凧あげをすることができなかつたので、自由保育の時には、教師の協力体制と役割分担が必要である。まだまだ多くの幼稚園が「自分の学級」という意識が強く、みんなで協同に指導していく保育の形態が定着していないように感じた。

## V 研究の成果と今後の課題

### 1、研究の成果

- (1) 幼稚園教育指導書増補版を始め、幼稚園の教育課程など多くの専門書に触れたこと  
幼児理解、教育課程と指導計画、指導計画と具体的な指導の関わりを理解することが  
できた。
- (2) 週指導案を基に幼児の生活する姿と、月・期・年の指導計画を照らし合わせたとき  
に幼児の育っていく姿や環境構成、援助のポイントの捉えが不十分であることに気づ  
き、工夫・改善することができた。
- (3) 検証保育においては、見直しをした指導計画を基に幼児の育ちの過程を捉え、興味  
や欲求に応じた環境構成と援助を工夫したことで、ねらいを達成することができた。
- (4) 幼稚園や小学校の相違や独自性を理解することができた。
- (5) 幼児の行動の記録や生活している姿から、情報を寄せ合い、共通理解の基に全教師  
で指導、援助することの大切さを痛感した。

### 2、研究の課題

- (1) 工夫・改善した指導計画を次年度の指導の方向づけとして生かしていきたい。
- (2) 幼児の発達する姿の捉え、指導の具体的なねらいや内容は妥当なものであったか、  
教師のかかわり方や環境の構成は適切だったかなど幼児を理解し、反省・評価をおこ  
ない、指導法を工夫・改善しながら実践を深めていきたい。
- (3) 一人一人の幼児の良さや育っていく姿をよりの確に捉え、幼児理解を深めていくた  
めに、全職員で全園児を保育する形態の工夫・改善に努めたい。

#### 《参考文献、引用文献、資料》

- |   |           |         |
|---|-----------|---------|
| ・ 幼稚園教育指導書増補版                           | 文部省       | フレーベル館  |
| ・ 幼稚園教育における指導と指導計画                      | 高杉自子・森上史朗 | 小学館     |
| ・ 幼稚園教育要領の展開                            | 岸井勇雄      | 明治図書    |
| ・ 幼稚園の教育課程                              | 西久保礼造     | ぎょうせい   |
| ・ 幼稚園の教育課程と指導計画                         | 川崎チヨ子     | 明治図書    |
| ・ 教育課程編成要領                              | 沖縄県教育委員会  |         |
| ・ 中教審「心の教育」答申読本                         | 明石要一      | 教育開発研究所 |
| ・ 時代の変化に対応した今後の幼稚園<br>教育の在り方について —最終報告— | 文部省       |         |